



就任のご挨拶

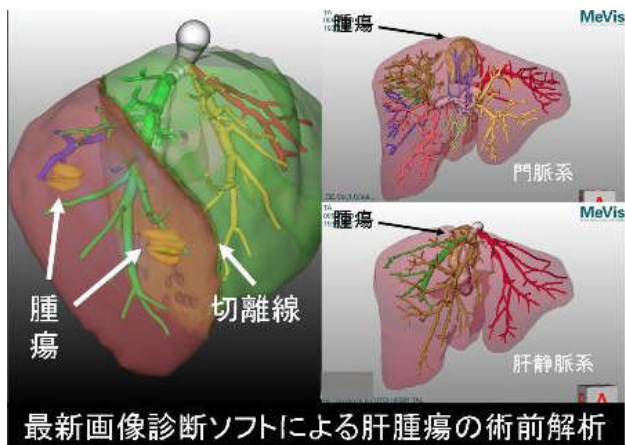
外科医長 光吉 明



本年 9 月より大津市民病院外科に着任いたしました。皆様よろしくお願ひ申し上げます。私は膳所高校を経て滋賀医大を昭和 6 1 年に卒業し、最終的には肝臓外科医を目標としましたのですぐに京都大学第二外科（小澤和恵教授）に入局しました。平成 3 年からの京大大学院では当時開始された生体肝移植手術に参加しながら、肝温阻血再灌流障害について研究しました。研究室終了後の三菱京都病院では 17 年間、先日まで勤務しておりました大津赤十字病院では 1 年 5 か月間、肝胆膵領域の癌手術および腹腔鏡による胃癌・大腸癌の手術を中心に行っておりました。今後大津市民病院では皆様の御指導・御協力のもと、以下の点に留意した外科治療を推進してまいりたいと思います。

①肝胆膵領域高度進行癌の手術

原発性肝癌や転移性肝癌に対し、最も根治的な治療法は手術ですが、どこの病院でも安全に行えるというものではありません。安全な肝切除術を行うにはまずは外科技術の向上が重要ですが、同時に徹底的な術前の肝機能評価および MDCT、MRI、PET など各種検査機器による手術デザインの検討が必要です。症例によっては「MeVis」に代表される最新の画像解析ソフトを用いることもあります（図参照）。また、手術困難とされた症例でも体外



循環下手術や血管合併切除再建などの先進的の手技を用いて切除が可能な場合もあります。幸い市民病院には高度手術機器が近年整備され、麻酔科との密な連携・協力、ICU での周術期管理体制もあり、このような複雑な癌手術を行うにあたって十分な環境が整っています。肝腫瘍を認める場合、御遠慮なくご紹介いただければと思います。

②内視鏡（腹腔鏡）による「患者にやさしい」消化器疾患の手術胆石症だけでなく、胃癌や大腸癌手術に関してもいまや半数以上は創の小さな腹腔鏡手術で行える時代です。開腹術に比べて痛みが少ない、術後の機能障害が少ない、入院期間が短くなるなど患者様にとっては多くのメリットがあります。しかし手術には高度な技術が要求されると同時に、安全性も確保されなければなりません。当院では救急例を含め可能な限り内視鏡

手術を行える環境にありますので、「創の小さな」手術を希望される場合には御遠慮なく御紹介いただければと思います。

③ガイドラインおよびエビデンスに基づくチーム医療の実践

現在は個々の外科医によるいわゆる「自己流治療」は通用しない時代です。消化器内科、放射線科など関係各科による徹底的なディスカッションを重ね、学会の定めたガイドライン（診療指針）およびエビデンス（医学的根拠）に基づいたハイレベルな診療を心がけ、クリニカルパスを活用しつつ患者様の細かな要求にも対応できる、いわゆる「オーダーメイド治療」を実践していきたいと考えます。

おかげさまで当科手術件数は近年急増しており、常勤外科医も増員中です。今後、医師会の先生方や関係病院の先生方とさらに協力させていただいて、滋賀県をリードできる高度な癌治療の推進、地域医療の充実のために尽くしたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

就任のご挨拶

脳神経外科医長 横山 洋平



この度、大津市民病院に脳神経外科医長として着任してまいりました。以前、専攻医として当院脳神経外科で研修しておりました、6年ぶりに当院に勤務することとなり、再び大津で診療に携わることができることを大変うれしく思っております。脊椎脊髄疾患をはじめ、脳卒中診療とくに脳神経血管内治療、および術中神経機能モニタリングなど機能的脳神経外科に積極的に取り組んでいきたいと存じます。これまでの当科の伝統である、低侵襲かつ神経機能を常に意識した治療を受け継いでいければ、と思っております。

皆さまのご指導のもと、多くの患者さんのお役に立ちたいと存じます。どうぞよろしく申し上げます。

就任のご挨拶

麻酔科副医長 永井 裕子



はじめまして。大津市民病院麻酔科の永井裕子です。今年5月に着任し、早いもので半年経ちました。

当院の麻酔科は常勤6名で年間2886件の手術麻酔（平成23年）をこなしており、多くの緊急手術にも対応しています。現在のご高齢の方、複数の合併症のある方の手術も多く、毎日のミーティングを通して安全かつ快適に麻酔を受けていただけるようスタッフ皆で検討を行っています。それぞれの方に適切な麻酔法を検討し、全身麻酔だけでなく硬膜外麻酔・脊椎麻酔・エコー下神経ブロック麻酔なども実施し、質の高い麻酔を心がけています。各科からの要望があれば他院では局所麻酔で行っているような手術であっても安全に全身麻酔を受けていただけるよう取り組んでいます。

近年メディアを通して偏った情報を耳にすることで、より不安に思われ手術に来られる方もいます。そのような方にも御納得いただけるよう術前の訪問にも時間を割いています。何かご不安に思われることがあれば是非麻酔科スタッフにひと声かけて下さい。

麻酔科副医長
永井 裕子

＊ご案内＊

◎看護局公開講座

11月9日(金)17時30分～19時00分
9階会議室

「看護師のメンタルヘルスケア」

滋賀医科大学医学部附属病院 安藤 光子

11月30日(金)

「終末期看護」

大津市民病院がん看護専門看護師 杉江 礼子



◎大津市民病院公開講座

11月10日(土)13時00分～16時00分
(12時30分開場)

大津市民病院 2階外来ホール

「糖尿病110番～糖尿病を知ろう～」



◎大津市医師会病院見学会

11月13日(火)14時30分～16時30分
9階A・B会議室

「3.0TMRを導入して～その魅力～」

副院長 青木 悦雄

「循環器疾患と心臓リハビリテーション」

循環器内科医長 木股 正樹



◎NST勉強会

11月22日(木)17時30分～19時00分
9階A・B会議室

「簡易懸濁法、経腸、経静脈栄養」

薬剤部:薬剤師長 中山 英夫

「NSTと口腔衛生管理」

歯科口腔外科:歯科衛生士 山本 伸子

※筆記用具・電卓をご持参ください。



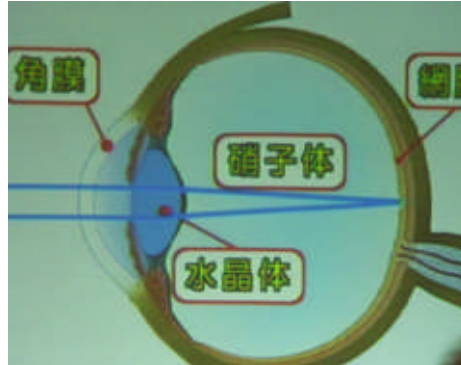
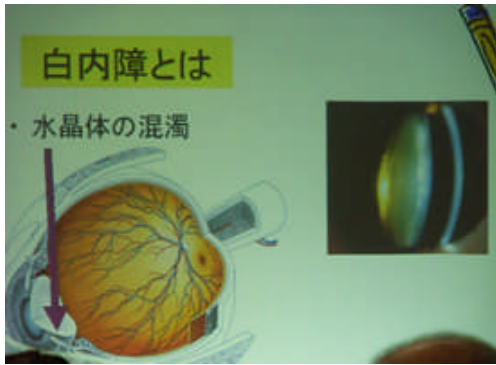


大津市民病院大学レポート

第6回目の大津市民病院大学を10月10日に開講しました。

受講者が多く関心の高さが伺えた「白内障のはなし」を眼科診療部長 尾藤洋子がお話させていただきました。

「白内障とは」「白内障の原因・予防法」「白内障の症状」「白内障の手術治療」をスライドを用いて解説したあと、手術の流れをDVDを視聴していただきながら詳しい説明がありました。DVDの中には実際の手術時の映像があり、みなさん真剣に見入っておられました。最後には、「高齢者は白内障になったら必ず手術をしないとだめ？」(回答→日常生活に不自由を感じないならしなくてもよい。)
「レンズの入れ替えはどのくらいの期間で行うの？」(回答→特別なことがない限り半永久的に使える。)等、日ごろ疑問に思っていることがたくさん飛び出しました。受講後のアンケートでは「白内障は怖いとの認識をもちました。」とのご意見もいただき、講義は大好評でした。



10月25日には今年度最後の大津市民病院大学を開講しました。

「放射線 被曝」のはなしと題し、副院長(放射線科診療部長)青木 悦雄がお話しさせていただきました。

「被爆と被曝の違い」、「放射線と放射能の違い」、「放射線から身を守るため」などを中心に説明しました。また、妊娠中のレントゲン撮影の危険性の低さにも触れ「妊娠中にレントゲンを撮ったことを理由に中絶は絶対にしないでください。」と再三お伝えしました。

受講後のアンケートでは「放射能と放射線の違いから始まって実際の医療におけるお話しまで具体的にさせていただいて良かった。」や「全講座を通じて早期発見・早期治療の大切さを身にしみて理解しました。」といったお声もいただきました。

来年度も市民の方々に関心に沿ったテーマでの講座を計画していきたいと思っております。

